

第2回栗東市子ども・子育て会議 会議録要旨

日時・場所	令和元年7月30日(火) 午後6時30分～午後8時40分 栗東市役所2階第1会議室
出席委員	神田萌子委員、武村貴菜委員、茨木知佳委員、萩原雅人委員、清水久輝委員、神門則子委員、山本喜美委員、木築野百合委員、寺井利彦委員、國松芳子委員、柴田美知代委員(会長)、井上和子委員(副会長)、柏川敏子委員、北村一子委員、明田弘美委員
欠席委員	菱田苗里委員、岸本祐子委員
事務局	子ども・健康部長、子ども・健康部次長、幼児課参事、幼児課課長補佐、健康増進課長、子育て応援課長、子育て応援課子育て支援係長、子育て応援課子育て支援係担当、計画策定業務委託事業者
事 項	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 市民憲章唱和 3 挨拶 4 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 第2期栗東市子ども・子育て支援事業計画の骨子(案)について【資料1】 (2) 各事業の量の見込みにかかる今後の考え方について【資料2、2-1】 (3) 地域型保育事業の開設について【資料3】 5 その他 <ul style="list-style-type: none"> ・幼児教育・保育の無償化について【資料4】 6 閉会

1 開会

2 市民憲章唱和

3 挨拶

・会長が挨拶を行った。

・事務局より委員17名中15名の出席により定足数を満たしているため、会議が成立することを報告した。

・事務局より傍聴希望者がいなかったことを報告した。

4 議事

(議事1)

第2期栗東市子ども・子育て支援事業計画の骨子(案)について【資料1】

・事務局が資料の説明を行った。

委 員 P26の3号認定について、入園申込者数が増えてきたので、平成29年度に見直しをして、平成30年度から急に増えているが、どのような対策をされたのか。

事 務 局 特に低年齢児の入園申込者数が増えていることから、平成29年度に定員14人の小規模保育施設を整備した。また、平成30年度には安養寺に栗東くじら小規模保育園と小平井に家庭的保育施設ふわりを整備し、平成31年度には栗東駅前にHOPPA栗東駅前園という小規模保育園を整備した。今年度についても新たに小規模保育園の整備を考えている。

委員 10月に次年度にむけて入所申込をされる方の対策はされていると思うが、転勤等で年度途中で転入された方は、保育園に入れないことが多い。途中入所の方の量の見込みはまた別にあるのか。

事務局 量の見込みは年度当初に1年間の総数で出しているのので、途中入所の方も含まれている。年度途中で転入された方が保育園に入っていない状況はあるが、年度当初に途中入所の方のために定員を空けておくことは難しい。施設整備を進め、量の見込みに出ているニーズを吸収できるような受け皿づくりをしていきたい。

委員 3月末に急に転勤が決まり転入することになったが、保育園に入所できなかったため、仕事を辞めざるを得ないということがある。また、一時預かりも、他の園に入っていると申込することができないので、普段は幼稚園で対応できたとしても、夏休み等の長期の休みに預かってもらえるところがないので、認可外の保育施設を探されているということもある。

委員 途中入所の方の対応は大きな課題であると思う。定員の空きはあっても、保育士の確保ができないということもあると思うがどうか。

事務局 年度途中で保育士を採用することは難しいので、年度当初におられる保育士の数に基づいて受け入れをせざるを得ないところである。ご指摘いただいた、普段は幼稚園に行き対応できたとしても、長期の休みにはネックになるという声をたくさんいただいているので、その対応については検討課題であると認識している。

(議事2)

各事業の量の見込みにかかる今後の考え方について【資料2、2-1】

・事務局が資料の説明を行った。

委員 人口推計について、0歳児は翌年に1歳児になり、1歳児は翌年に2歳児になるが、毎年人数が単純に減っている。0歳児の人数は、増える年もあるれば減る年もある。どのような意図で人口を推計されたのか。

事務局 0歳児は今後生まれてくる子どもの人数になるが、15歳から39歳までの子どもを産むであろうと想定される年齢の女性がどれくらいの割合でいるのかを算出し、その割合を使って算出している。また、例えば、平成31年の0歳児の人数より令和2年の1歳児の人数が減っている理由としては、開発等により増える人数より、転出等で減る人数が多い傾向にあるためである。

委員 第1期計画を策定した時の推計人口と実際の人口は概ね合致していたのか。

事務局 0歳から17歳までの人口について、平成29年度は、推計14,493人に対して、実際は14,520人であり、大きな違いはない。また、平成31年度は、推計14,343人に対して、実際は14,273人であり、推計人口より実際の人口が少し少ない状況である。

委員 量の見込みを算出するにあたり、単純な計算式で算出して補正をかけるということだが、今はAIの時代で、データを入力することで人間が単純に算出する以上の結果が出せるにもかかわらず、単純な計算式で算出することとはどうなのか。以前からこの計算式を使っているのか。

事務局 量の見込みを算出するのは、第1期計画を策定した平成26年度が初めてで、今回が2回目である。時代の変化でAI、ICTの活用が言われているが国の制度がここまで追いついていないところがある。子ども・子育て支援事業計画は国の方針をふまえて策定していくものであるのので、国の示す算出方法に、実態を加味して策定していくしかないと考えている。

委員 AIはいろいろなデータを収集してから学習するので、収集する基がないと学習ができないから計算ができない。だからまだまだ先である。

委員 国はすごく遅れている。少子高齢化がこれだけ進むということを国はどの時点で予測できたのかと思う。このようなひどい状態になることを国が先に見通しを立ててやっていたらなければならなかったにもかかわらず、今このような事態が生じている。その国から出される計算式で良いのかと思う。

事務局 国から補正をせずに実態に合った数字が出る計算式を示してくれれば良いと思っているが、ニーズ調査の結果をベースにすることから、市町の実態に応じた補正をする必要がどうしても生じてくる。

委員 国の計算式で算出されたニーズ量と実態がかけ離れており、補正できる範囲の数字ではない気がする。ニーズ調査の質問の方法が本当に正しかったのかとを感じる。ニーズ調査の質問の方法も国の指導によるものなのか。

事務局 質問の内容については、あまり変えずに使わないといけない中で、サービス内容の説明を記載し、質問の内容が難しいものは簡単な内容にする等、可能な限り、回答者が回答しやすいようしているが、回答内容はどうしても回答者に委ねられるところがある。

委員 他の市町でも、同じ内容のニーズ調査で、同じ計算式を使って算出されているのか。

事務局 他の市町も、基本的には国の計算式で算出したうえで、実態と比べながら適正なニーズ量を考えていくという手順を取っておられる。

委員 他の市町もニーズ量と実態がかけ離れたものになっているのか。

事務局 人口が少ない市町ほど、ニーズ調査の結果から得た割合を使用することで実態と離れた数字になりやすい。それはその市町にもよるところである。

委員 これではニーズ調査の値打ちがあったのかと思う。回答していただいたにもかかわらず実態とかけ離れたものとなっている。もう少し実態に近い結果がニーズ調査で出てくるべきではないかと思う。補正が必要であるとは思いますが、補正できる範囲ではない数字が出ているのでそれが疑問で聞かせていただいた。

(議事3)

地域型保育事業の開設について【資料3】

・事務局が資料の説明を行った。

委員 先日瀬田の保育園であった事故も代替地の公園に行く途中に起こった。開設される2箇所は代替地の公園が屋外遊技場になるので、その代替地の公園までのルートを市も確認して安全性を担保していただきたい。

事務局 この瀬田の保育園での事故を受けて、市で既存の保育園を含めて、散歩コースとしてどこを通っているか、その中で危険と感じる箇所はどこかを調査した。危険な箇所については、道路整備は建設部局と、交通規制は公安委員会と連携しながら対策をしていきたいと考えている。

委員 代替地の公園はどこを利用する予定なのか。高野に開設される保育園は前の道路の交通量が多い。代替地の公園は保育園側にあるのか、それとも前の道路を横断した児童館側にあるのか。

事務局 高野に開設される保育園で検討されている代替地の公園は、建物に向かって左側の通り沿いにある公園を想定していると聞いている。治田くじら小規模保育園については、坊袋の旧道沿いでバスも通る道に開設されるので地元からも安全対策についてご意見いただいている。できるだけ移動距離が少なく安全なところに代替地の公園を確保していただくようお願いし

- 委員 している。
- 委員 治田くじら小規模保育園の事業者の所在地が長崎県であるが、なぜわざわざ栗東市で開設するのか。また、ぱれっと園の事業者である株式会社ジッセント・シップはどのような会社なのか。
- 事務局 治田くじら小規模保育園の事業者の本部は長崎県にあるが、既に草津市、大津市でいくつかの小規模保育所等を運営されている。兵庫県伊丹市に関西の拠点があり、関西にある小規模保育所等の統括的な役割をされている。また、株式会社ジッセント・シップは、東近江市にある会社で、放課後等デイサービスや企業主導型保育を運営されている。放課後等デイサービスで障害児の受け入れをされているので、保育士、リハビリテーションをすすめる職員、栄養士で保育環境を作って運営していきたいとプレゼンテーションでも言っておられた。
- 委員 小規模保育園が増えることによって、0歳児から2歳児までの受け入れができるのはよいが、安全、安心面に気をつけていただきたいと思う。市が認可する施設なので市の指導も入るということでよいか。
- 事務局 地域型保育施設は市が認可するので市で監査も実施する。そこで改善すべき内容については指導し、改善を求めていく。また、幼児課の巡回支援員が定期的に訪問し、どのような保育をしているのか確認し、保育園で何か困っていることがあれば、アドバイスをさせていただく。月に何日かは保育園を訪問し、適正な運営ができるような体制を取っていく。

5 その他

幼児教育・保育の無償化について【資料4】

- ・事務局が資料の説明を行った。

次回の会議日程について

- ・次回の会議は、10月15日（火）午後6時30分から市役所第1会議室で開催する。

6 閉会

- ・副会長が挨拶を行った。

以上